



学校だより

No.1



令和7年7月18日発行
福島県立だて支援学校

◆校長あいさつ

校長 渡邊 弘規

今年度、校長となりました渡邊弘規と申します。よろしくお願いたします。

だて支援学校は開校4年目を迎えました。令和7年度は、小学部58名、中学部29名、高等部34名、計121名でスタートしました。開校時よりも30名以上多い児童生徒数となっております。伊達地域初の特別支援学校として、地域みなさんにも支援していただきながら、教育を進めているところです。

さて、本校には、3つの教育目標があります。「自ら学び、自ら考え、行動する人」「相手を思いやり、協力し合える人」「健康な心と体を育む人」です。これらは、児童生徒、教職員、保護者のみなさん、地域みなさんに、ことあるごとに発信をしているところです。

また、「児童生徒の願い」として、「ひとりひとりが あいさつの輪を ひろげよう」という言葉が掲げられました。これは、昨年度、高等部生徒会を中心に子どもたちが考えたものです。

子どもたちがこの3つの目標と願いを達成するために、何をすればよいかを考え、積極的に取り組んでほしいと考えています。そして、少しでもいいので、自分なりに、自分らしくがんばる姿を期待したいと思います。

だて支援学校は、大変よい場所につくっていただきました。地域の方々には理解が深く、子どもたちを応援してくれています。そして、近くには駅、市役所、警察署、郵便局、買い物をするところなど、学習する資源がそろっています。このような地域で学ぶことができることを大いに生かした学習を展開していきたいです。また、応援していただくだけでなく、だて支援学校の子どもたちが、そして学校が、少しでも地域に貢献できるよう、子どもたちががんばりますし、私たち教職員もがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。

学校だよりは、年3回発行予定です。各学部や各部等の学校経営・運営ビジョンの目標達成状況や達成に向けた取り組みについてお知らせします。

◆小学部

教師や友達とかかわりながら共に活動しようとする児童を育てます。



小学部では、新・転入生を迎え、今年度58名でスタートしました。児童が安心して教師や友達とかかわり、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりしながら、一緒に活動する楽しさや達成感を味わえるよう個に応じた支援を行っています。

毎日過ごしている学級集団の中で、言葉や身振り、表情、視線等、様々な手段での

児童からの発信を教師が丁寧に見取り、受けとめながら、児童が「伝えたい」という気持ちを持ち、自分の思いが「伝わった」という喜びを感じる経験を重ねていくことができるよう、今後も教育活動に取り組んでいきます。



◆研修部

校内研修を通して、子どもが分かる授業を目指して授業研究を行います。



研修部では月1回研修日を設定し、校内研究テーマに基づいて授業研究を行っています。6月の研修日の授業研究では、単元で目指す子どもの学びの姿や達成するための手立てについて検討しました。今後実践を振り返り、子どもの学びがどうだったか、よりよい授業をするための研究会を行います。

地域コーナー

～伊達地域で共に学び共に生きる～

伊達市立大田小学校の5年生が来校し、小学部3・4・5年生と交流及び共同学習を行いました。どちらも最初はドキドキ、距離がありましたが、学校探検やクイズを通して、どんどん心の距離が近付きました。地域で学んでいる友達がいること、共に学ぶことができることをお互いに知った一日になりました。



(学校だよりは、だて支援学校 HP (<https://date-sh.fcs.ed.jp>) からご覧いただけます。)